

あさ吉夜話

■ 其三

－ 安治川 －

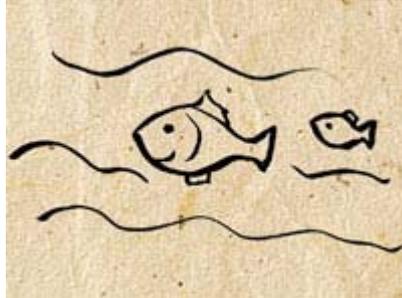
どうもこんにちは、桂あさ吉です。今回のテーマは「安治川(あじがわ)」です。以前見た錦絵に描かれた天保時代の安治川の景色はすばらしく、今も目に焼きついています。本当にきれいな風景で、まるでおとぎ話の世界でした。という訳で、ちょっとその時代にタイムスリップ。まさに、古典落語の時代ですね。

喜六－清やん、何か今日はえらい人やな。

清八－ああこれか、おまはん知らんのかいな、これは「御救大浚(おすくいおおざらえ)」言うてな、安治川の底にたまった土砂を掘って運んでんねや。

喜六－なんで、そんなことすんねん？

清八－何にも知らんやっちなあ、それをせな舟が通られへんなるし、川底が上がったら、洪水になりやすいんや。



喜六－へえー。けど、みんな楽しそうに仕事してるなあ。太鼓や鉦(かね)で囃し(はやし)たてて、なんや祭りみたいや。

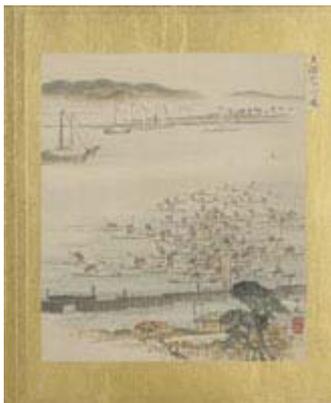
清八－ほんまやなあ、ここの人は根っからの陽気な人が多いんかもなあ。

喜六－楽しそうやな…。わいもよしてもらおう。

清八－おい。かくれんぼやないねんで、これはちゃんとした、お上の仕事やで。

喜六－かめへんがな、人が多いほうが仕事もはかどるやろ。おーい、わいも手伝うでー！

清八－……おーい喜六！ほんまに行きよった。まあええか、安治川の土砂をすくう仕事やし。お上も水に流してくれるやろ。



大阪歴史博物館蔵

おあとがよろしいようで。